

開運成就 粟生聖天

真言宗 智山派

定福寺だより



蓮咲くは
笑い地蔵の
在す寺

能傳子

新四国曼荼羅霊場第六十一番

2017年 56号

ひのと とり
丁酉



ごあいさつ

住職 釣井 龍秀

檀信徒の皆様方におかれましては、よき平成二十九年丁酉（ひのととり）の初春をお迎えのことと存じ上げます。平成二十八年は、定福寺にとりまして「つながりの年」でございました。平成二十八年四月一日に、住職を交代する晋山しんざんの儀式を執り行いました。「晋」は「進む」という意味で、「山」はお寺をあらわします。新たにお寺に入り住職となる儀式のことを晋山式といえます。定福寺は豊永郷に開かれて、七年



師より五銘と七条を引き継ぐ様子

後の平成三十五年に一三〇〇年の年を迎えます。その間、お寺は歴代の住職や僧侶たちにより、仏さま、法（仏の教え）と修法（お祈りの行）が引き継がれてきました。そのお寺を一三〇〇年間支えてくださったのは、豊永郷にご縁のある方々、また定福寺の檀家信者の皆様方でした。定福寺は、皆様方に様々な

形で見守られ、支えられてきました。また定福寺も地域の人々を見守り、見つめ、時には共に作業をおこないながら、豊永郷の人々と共に一三〇〇年の歴史を積み重ねてきました。最もそのことがわかることが、明治時代のことでした。

高知県は、廃仏毀釈によって、数百の寺院が廃寺となりました。吉野川流域の嶺北地域では定福寺だけが、廃仏毀釈を逃れました。免れた理由は、豊永郷の人々の思いでした。豊永郷の人々の嘆願により廃寺を免れたとされています。当時、定福寺にいた多くの僧侶のために、食料となるお米などを豊永郷の人々が持ち寄り、僧侶は助けられました。現在の永統えいどく米です。

皆様のご先祖様、豊永郷に縁を持つ人々、豊永郷に暮らす人々、そして多くの僧侶の思い、すべての命のつながりに支えながら七年後に一三〇〇年を定福寺は迎えることができます。この度、その一員となり、一山いっさんを守ることができ、ありがたさと重責を感じています。

僧侶の行住坐臥ぎょうじゅうざがのたたずまいや寺院の様子は、日本の伝統文化の象徴の一つと言われています。「文化」という言葉を聞くと「変化をせず、つながり続けたモノ」のように感じます。

文化とはなんでしょうか。美術でしょうか、建築でしょうか、川喜田二郎という人は、人と自然をつなぐモノを文化といいました。

古来より、様々な世界観や価値観をもった人がいました。どの地域の人でも自然から恵みを受けて生活をしてきました。その自然に対して最初に触れるモノが道具でした。道具を使う技術が発達し、更に道具が発達すると、時間と物にゆとりができます。時間と物のゆとりは流通となり、経済活動となりました。経済活動が発達すると職人などが登場し、社会の組織が誕生いたします。人と自然の間にあるものは、道具・技術・流通（経済活動）・社会組織・人々の価値観ということになります。

「文化」は人が生活をするということ、生きるということだということになります。道具や技術が変化することで、社会が変化し、社会が変化することで人の価値観や考え方が変化し、その人がまた道具や技術を変化させてきました。「文化」は時代ごとに変化してきたということになります。

仏教は、お釈迦さま以来、世界中のどの国



修法をする様子

でも変化し、引き継がれてきました。また変化をしない部分を大事にしてきました。インドネシアの仏教、タイの仏教、チベットの仏教、日本の仏教。それぞれの国の仏教は、その国の社会にあった仏教に変化しました。しかし、その中心に流れるお釈迦さまの教えは、同じようにどの国でも引き継がれています。そして、お釈迦さまは、仏の法（教え）は私が悟ったものではなく、過去からのつながりの中で悟ったものと述べられています。

変化しなければならぬモノ、変化してはいけないモノ。その境を常に見定めながら、これまでの住職は、豊永郷と縁のある人々と共に定福寺を守ってきた一面があります。

これまで、定福寺を支えてきてくださった何千、何万、何百万、何千万の人々の思いと皆様と共に、これから定福寺と豊永郷の素晴らしさを、次の世代に引き継ぐために、定福寺と豊永郷ののりしろになれるように、日々精進したいと思います。

これからこれまでと変わらず、ご指導、ご助言をよろしくお願いいたします。



法類総代 竹林寺様のごあいさつ



四月一日晋山式で読み上げられた、伝燈奉告文を掲載します。

伝燈奉告文

敬つて真言教主大日如来金胎两部界会諸尊聖衆 本尊阿弥陀如来 葉師如来 地藏菩薩 並びに諸菩薩 当山鎮守熊野大権現 殊ことには本尊聖者弘法大師 別べつしては中興興教大師を始め

歴代先師（諸大阿闍梨耶）に白もつして言もつさく

それ以おもるに定福寺は 聖武天皇勅願により神亀元年に行基菩薩により開山され 本尊阿弥陀如来を安置たてまつし奉り 師資累代相承して今に千二百九十有

余年、法灯いよいよ愈々輝きを増し靈驗日々新たなり

表に末資の沙門 龍秀 先師龍宏大阿闍梨退任の後を承けて 先師の法灯を継ぐ 顧かへりみるに先師

弟子の戒行熟さぬを案じ 法灯継承に先立ち総本山智積院で学りぶを許すこと十五年 別院真福寺で

学りぶこと四年 龍象りゆうそう諸大徳の 慈海薰陶の下 洛

東根嶺の遺風いふうに触ふれ尪弱わうじやくの性を 以もつて今日漸ようやく嚴重の堂に入ることを得たり 海滴かいてきの師恩しおんいづれの日にか之に報いん

しかるに 歴代先師は 祖靈それい崇敬の徳風を興おこして

檀信徒と共に菩提心の開花を喜び 先祖供養の灯火を点ともして大慈大悲の道を照らす

この大任を前に省かへりみて甚はなはだ戦々兢々たるものあり 然しかりと云えども 幸いなる哉

先師龍宏和尚は泰山の如く当山にあつて長老として貧道ひんどうを導き 碩徳せきとく巨匠の法縁は浅学を援たすく

加之 十方檀越の信助は非才を支えて余りあり

然れば則ち龍秀 今日以降の止住所作しじゅうしよさに於いて 全身全霊を傾注けいちゆうして意馬いばに鞭打ち心猿を叱咤しつたし

以つて内外の信賴と期待に背かざらんことに務めることを誓う

仰おほぎ乞こい希ねがわくは本尊阿弥陀如来を始め奉り 諸仏諸菩薩 並びに諸天善神 末資が丹心たんしんを哀愍納

受せられて至願しがんを成就せしめ給わんことを 万至法界 平等利益

平成二十八年 丙申 卯月 朔日

栗生山歡喜院定福寺 龍秀 敬白

ごあいさつ

長老 釣井 龍宏

おかげさまで長老となりました。

昭和六十一年四月一日は、定福寺三十二世権大僧正義光和尚より、三十三世住職を受け継ぎ、平成二十八年四月一日、土砂加持法要後三十四世龍秀が住職として晋山、私は長老として董山致しました。

昨年の六月弘法大師ご誕生青葉祭りに総本山智積院に於いて、管長猊下より、長老並に寺庭照子と共に三十年の護持功労賞を拝受させていただきました。これ偏えにご本尊さまを始め、先師代々責任役員檀信徒皆様方のご法援の賜物であると心より感謝申し上げますと共に、新しい住職への益々のご法援をおねがい申し上げます。略儀乍ら、住職交替のご挨拶とさせていただきます。

合 掌

十 善 戒

十の良いいきを実践しよう

一日の如まりに十善戒をお唱し実践して有意義な一日を送りましょう。

一 不殺生 あつる生命を奪ふ 二 不偷盗 他人のものを奪ふ 三 不邪淫 あつる恭敬にあつ 四 不妄語 正道に話さう 五 不綺語 よく考えて話さう	六 不悪口 優しい言葉を使ふ 七 不両舌 思ひやうのあることを話さう 八 不慢 食惜しなく施さう 九 不瞋恚 なやかに暮らさう 十 不邪見 正しい判断しよう
--	--

動物であるヒトが十善戒という心の薬を服用することで、はじめて人になります。

真言宗智恵派 定福寺

定福寺の行事

「お堂祭り」

旧暦6月1日～8月31日

旧暦の6月1日から8月まで各地区でお堂祭りがおこなわれます。豊永のお堂は、三十六カ所あります。それぞれのお堂では仁王経法にんのうきようほうが修法されています。仁王経は、災難を取り除き、国を安定させることを示したお経であり、真言宗において仁王経法を修することは稀なことです。

定福寺では、地域の災難を取り除き五穀豊穰により地域が安定しますようにという願いで、昔から修法されています。昔は夏のこの時期に「虫送り」をしていた地域もあったようです。現在、豊永郷では残っていませんが、定福寺の法類（お寺の親戚）である宝珠寺では、夏に松明と太鼓を持ち、お札を境に立てていきます。かつての豊永郷の様子も想像ができます。

また、田の多くある地域

では、枇杷びわの葉に真言を書き、一緒にお祈りをします。お堂祭りが終わると、枇杷の葉を各家に配りますが、虫送りのために田に竹で刺して祀ったり、畦に祀ったりしていました。西川地域では、病の時にこれを煎じて飲んでいたという話も聞きました。

各地区のお堂のご本尊さまは違っていても、両脇には多くのお堂で毘沙門天さまとお不動さまがいます。定福寺の本堂も同じです。奈良の文化が豊永郷に伝わったからともいわれています。

お堂の歴史を見ると、多くは江戸時代に造られたお堂や仏さまが多いようです。藩の御触書に各地区で仏さまと神さまを祀るように書かれたものを見たことがあります。その影響ではないかと思われます。

僧侶にとって、仏さまと向

き合い一心に修法ができる機会は大変ありがたいものです。それも各地区の皆様が

お堂を守って下さっているお陰様です。これからもよろしくお願いいたします。



奉寄進への感謝録

一、金参百万円也

施主 高知市

全

山本 光子 様

山本 倫世 様

俗名 弘明門・俗名 守恒門の菩提と当

山興隆の為行基菩薩・一興教大師さまの像を刻み、本年春、奉納下さる予定であります。

一、金壹百万円也

施主 香美市(元岩原)

藤原 重博 様

妻 庸恵 様

一、金参拾万円也

施主 落合

佐野 兆史 様

妻 梅香 様

一、金壹拾万円也

施主 川井(現善通寺市)

上村 守 様

一、金壹拾万円也

施主 大滝 小松龍一外弟妹一同 様

先祖菩提・菩提寺興隆の為ご奉納下さいました。謹しんで御礼申し上げます。

永代日牌供養新奉加ご芳名

永代日牌供養とは、当山持仏堂(弘法大師、興教大師ご宝前)にお位牌を安置し、毎朝仏飯とお茶を供えて読経回向し、春彼岸の入りには年忌を迎える仏さまの卒塔婆を建て、年忌ごと

に、先祖代々の場合は五年ごとにご案内し、ご供養申し上げます。五十回忌の後も、お位牌は末代安置され、ご供養してまいります。

一、施主 名古屋市(元川井)鈴木 弘美 様

父 俗名 平石 達喜 丁

(永代納骨)

一、施主 吾川郡いの町(元川井)平石 聡 様

母 逆修 俗名 秋 恵 丁

(永代納骨)

一、施主 大滝 小松 龍一 様

父 俗名 俊 才 丁

一、施主 高知市(元大畑井)西村 満恵 様

夫 俗名 栄治 丁

一、施主 神戸市(元大砂子)武川万里子 様

志 俗名 中西福美子 丁

(永代納骨)

一、施主 東土居 西村 藤子 様

夫 俗名 源 三郎 丁

一、施主 香南市 三宮 直美 様

志 俗名 渡辺 鉄男 丁

一、施主 森尾 麻依 様

志 兄 俗名 吉川 優也 丁

母 俗名 吉川 一美 丁

一、施主 久生野 笹岡香代子 様

ご本人 逆修・先祖代々

逆修とは、生前に戒を受け仏の世界での名前を頂くことです。

永代納骨は、万霊供養塔にお骨を納めて永代供養を申し上げます。

祠堂料志納ご芳名

祠堂料とは、亡き仏さまへの報恩謝徳と菩提寺の興隆を念じて、奉納される浄財です。そのご芳志の高徳にお答えして、菩提寺より、亡き仏さまに、院居士、院大師、居士、大師の法名が届けられます。

一、施主 三ツ子野 西村 弘 様

父 善三郎 丁 菩提也

一、施主 桃原 上村 茂清 様

父 常 廣 丁 菩提也

一、施主 土佐山田町 紫田 俊幸 様

母 富 子 丁 菩提也

一、施主 高知市 山本 敏広 様

母 博 子 丁 菩提也

一、施主 南国市 小笠原隆司 様

父 富 登 丁 菩提也

一、施主 大久保 北窪 正則 様

父 正 光 丁 菩提也

一、施主 岩原 森尾 麻依 様

母 吉川 一美 丁 菩提也

一、施主 野々屋 小笠原啓元 様

養母 房 子 丁 菩提也

一、施主 久生野 笹岡香代子 様

本人(逆修)

永続米(護持会費)の納入についてのお願い (平成29年度分)

町内檀信徒の皆様は、各地区総代(護持会代表)・世話人様のお世話により、一月中に納入されています。町外檀信徒の皆様は、振替用紙にてお納めくださいますようお願い致します。尚、納められた浄財は、私たちの総本山智積院への負担金及び定福寺の護持興隆の為に使用させていただきます。(振替用紙をご利用ください)

金 1,500円以上也

郵便口座 口座記号 01620-7

口座番号 12426

加入者名 宗教法人 粟生山 定福寺

平成29年度 法語

報恩謝徳

ほう おん しゃ とく
ご恩に報いて、徳に謝する。
おかげさまで、ありがとうございます。
徳のある人は一人にならない。
おかげさまでありがとうございます。
ごいまいすを實踐して行きましょう。

定福寺クリアファイル をつくりました

プロ写真家の山本芳子様にデザイン・企画をいただき、オリジナルのクリアファイルを作成いたしました。一枚300円で販売しておりますので、どうぞご利用くださいませ。サイズはA4です。

土砂加持法要ご案内

四月一日(土)

午後二時(本堂)

法語 十二時より

県下真言宗寺院様のご出席をいただき、新仏さまのご加入とご先祖さまのご供養が厳修されます。法語は昼の十二時より本堂に於いて布教師様が行います。どうぞご参詣ください。尚ご先祖様の永代供養をご希望の方は、お申込みくださいませ。

檀信徒の皆様へ

ありがとうございます

年間の行事(おまつり)の前後や年末年始には、初穂米、干物、砂糖、野菜、生花等々が届けられます。

ご信心な方々には、行事ごとにさしあげるお斎(食事)の準備を始め、当日のお手伝いや受付をしていただいています。

お蔭様で、各行事も厳粛で盛大に行われています。



2017年 平成29年度年回表

一周忌	平成28年
三回忌	平成27年
七回忌	平成23年
十三回忌	平成17年
十七回忌	平成13年
二十五回忌	平成5年
三十三回忌	昭和60年
五十回忌	昭和43年
百回忌	大正7年

以下50年目ごと

定福寺開創	1,293年前
本尊造立	865年前
本堂再建	237年前

仏誕	2583年
西暦	2017年
明治から	満149年
大正から	満105年
昭和から	満92年

土佐豊永万葉植物園に咲く花(十一)



うのはな (うつぎ)

ユキノシタ科 (木本類)
落葉低木。幹、枝とも中空でそのため空木 (うつぎ) とよばれる。花期は5月～6月。

写真 岡田憲佳

「卯の花」の名は荒木(うつぎ)の「ウ」を取って、う(うつぎ)の花と名付けられました。ちなみに、旧暦4月を卯月というのは、卯の花が咲く時期であることから卯月と名付けられたようです。

北海道南部、本州、四国、九州に広く分布します。豊永地域にも自生の大きな株がたくさん見られ、初夏の緑の中、白い花が良く映えます。定福寺境内にもたくさんあ

りました。一度深く伐採してしまふと再生が難しい木でもありません。粟生から大平の旧小中学校への道沿いでは毎年たくさんさんの美しい卯の花を楽しむことができます。日本の唱歌「夏は来ぬ」に卯の花とホトトギスの組み合わせがありますが、万葉集を読むと、古来から卯の花とホトトギスの鳴き声が初夏を彩る風物の一つであったとわかります。

五月山卯花月夜ほととぎす 聞けども飽かずまた鳴かぬかも

(万葉集巻一〇——一九五三) 作者不詳

夏の風情が溢れる中にホトトギスの声を詠んだ歌です。「卯の花月夜」「五月山」は共に詩的な造語で美しく、前者では卯の花を浮き立たせて照らしている月夜で、後者は五月の新緑あふれる山を匂わせています。卯の花の歌は万葉集に二四首あります。

『夏は来ぬ』卯の花の 匂う垣根に 時鳥 早も来鳴きて

しのびね 忍音もらす 夏は来ぬ

◎とても大切な真言三つ

○発菩提心真言

おんぼだいしんごん
おんほうちしつたぼだはだやみ

この真言を三反唱えると、仏さまと同じ心になり、自身を守られると共に人の苦しみを抜き、人によるこびを与えていきます。

○三昧耶戒真言

さんまやかいしんごん
おんさんまやさとばん

この真言を三反唱えると、仏さまと同じ姿になり、生きとし生けるものへのあわれみと幸福の為に進んで行きます。

特にこの二つの真言は、ご先祖さまへの供養のため、又日常生活の中でつらい時、苦しい時、うれしい時、自分ばかりでなく、広くご縁の方々の為にもお唱え致しましょう。

守って下さる事を信じています。短い真言ですので、是非空で憶えて、自然とほとばし出る真言に致しましょう。

長老 龍宏

お寺での法事

お寺で法事をされたい方は、その旨をお伝えください。

お持ちいただくものは、お位牌、お線香、ロウソク、お供え物(果物やお菓子、お酒など)、お花、シキビなどです。ご自宅での法事に準じるようにご用意くださいませ。お霊供膳はお寺でご準備いたします。

また法要後、お寺でお食事をされたい場合は檀信徒会館をご利用ください。法要の申し込みの際に人数をお伝えいただければ、お皿や湯飲みなどを準備いたします。尚、仕出し店への注文や、後片付けはご法事を営まれる皆さまにお願いしております。

ご法事の後にご使用いただくことにしまして、お檀家様に会館の使用料はいただいております。詳しいことはお尋ねください。

定福寺の諸仏像（県指定 12 体 ○印）・堂宇

定福寺本堂

- 阿弥陀如来像(本尊)
- 薬師如来像(脇土)
- 地藏菩薩像(脇土)
- 不動明王像
- 毘沙門天像
- 大聖歓喜天像
- 十一面観音像
- 不動明王像
- 矜羯羅童子像
- 制吒迦童子像
- 大黒天像

宝物殿

- 六地藏（笑い地藏）
- 十一面観音菩薩（定福寺奥ノ院）
- 聖徳太子立像
- 不動明王座像
- 弘法大師座像（御影堂）
- 毘沙門天

持仏堂（大師堂）

弘法大師座像
聖観音立像
地藏菩薩立像

〈国登録有形文化財〉 本堂、持仏堂(大師堂)

境内

弘法大師修行像
十三仏像
七福神像
四国 88ヶ所お砂踏
仁王尊像
稚児大師像
薬師如来像

平成29年 当山年中行事

行 事	日 時
修 正 会 初護摩祈祷 大般若經転読	1月1日 午前0時より
修 正 会 大護摩祈祷 大般若經転読	1月2・3日 午前10時より
七 福 神 ま つ り（福笹授与・七草がゆ接待）	1月7日 11時
節 分 会（厄はね歳とり）大護摩祈祷	2月3日 13時
檀 信 徒 年 回 忌 先 祖 総 供 養（彼岸中日）	3月20日 13時
土 砂 加 持 法 要（先祖菩提総供養）法話 12時より	4月1日 14時
加 持 ヶ 峰 奥 ノ 院 大 師 縁 日 大護摩祈祷（旧暦3月21日）	4月17日 13時
花 ま つ り（大念珠まわし・百足除札授与・甘茶接待）	5月3日(旧暦4月8日)10時
蓮 ま つ り（万霊供養） 土佐豊永万葉植物園保存会主催	7月初旬～8月中旬
諸 病 き ゆ う り 封 じ 祈 禱 土用の丑	7月25日 9時～11時
お 盆 総 供 養（迎え火）	8月13日 9時～
施 餓 鬼 供 養（千体地藏流し・送り火） 東土居川原	8月16日 16時～
も み じ ま つ り	11月初旬～12月初旬
粟 生 聖 天 結 願 祭（開運福寿）	11月16日 9時～14時
除 夜 の 鐘	12月31日
粟 生 聖 天 ご 縁 日	毎月 1日・16日
詠 歌 会（午前10時～12時）	毎月 2回

御法事を営まれる際はなるべく早目にお申し込みくださいますようお願いいたします。
（友引は葬儀、法事は執り行いません）お塔婆は1本二千円です。

発行所

真言宗智山派
宗教法人 粟生山 定 福 寺
〒789-0167 高知県長岡郡大豊町粟生
☎ 0887 (74) 0301(代)
FAX 0887 (74) 0302
<http://www1.quolia.ne.jp/~jofukuji/>

住 職 釣 井 龍 秀
長 老 釣 井 龍 宏
法類総代 竹林寺住職
責任役員 海老塚和秀
責任役員 下村 堯基
責任役員 都築 康博
地区護持会 小笠原俊一
遍照講詠歌会議員 代表会 一同

平成二十九年 丁酉

新四国曼荼羅霊場第61番札所
土佐豊永万葉植物園
山野草園